

平成 29 年度 一般採用試験 (前期日程)

地理歴史 (日本史) 試験問題 (5頁中の1)

(人文・社会科学専攻)

(注意) 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄または枠内に記入すること。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。

1 以下は古代の日本における文化の展開を概観した文章である。()内に適切な語句あるいは人名を漢字で記入しなさい。

8世紀初め、古くから宮廷に伝わる『旧辞』や『(1)』をもとに天孫降臨から推古天皇までの物語をまとめた『(2)』、漢文による編年体で持統天皇までの歴史を記した『日本書紀』、そして日本各地の地勢や風俗を調査した(3)が編纂された。(3)の多くは後に散逸してしまったが、『常陸国(3)』、『出雲国(3)』のようにまとまった形で残ったものもあり、当時の社会を知る貴重な史料となっている。また、8世紀中頃には『(4)』という漢詩集も編纂された。一方、8世紀後半には古代の和歌の集大成である『(5)集』が漢字の音読みと訓読みを組み合わせた「(5)仮名」を用いて編纂された。

その後、9世紀末に(6)の建議によって遣唐使が停止されるなど、大陸との関係に大きな変化が生じると、それまでに受容した中国文化の消化・吸収と日本在来の文化との融合が進んだ。こうして10世紀から11世紀にかけて国風文化の時代を迎える。その象徴が「かな文字」の発明であった。「かな」を使用して書かれたものとして、かぐや姫の伝説を基とした『(7)物語』や、在原業平をモデルにした『(8)物語』、琴をめぐる四代にわたる貴族一家の歴史を描いた『うつほ物語』などがある。紫式部が著した『源氏物語』は当時の絢爛とした貴族社会を描いた物語の最高峰であった。

一方、主として宮廷に仕える教養のある女官たちにより「日記」が書かれ、『蜻蛉日記』、『和泉式部日記』、『紫式部日記』、『更級日記』などが今日まで知られている。貴族の日記としては、藤原氏全盛期を築いた藤原道長の『(9)』や、右大臣藤原実資が残した『(10)』がある。また、『古今和歌集』の編者でもあった(11)の『土佐日記』は紀行文学ともいえる。

書道の分野でも、前代の唐様に対して和様が発達し、(12)・藤原佐理・藤原行成の三名は(13)と称された。

2 以下は平安時代の末期から室町時代前期にかけて書かれた軍記物語と歴史物語について記した文章である。()内に適切な語句あるいは人名を漢字で記入しなさい。

11世紀後半から約100年にわたり、上皇が政治の実権を握った時代は(1)期と呼ばれる。(1)期に起きた後白河天皇と崇徳上皇の対立を発端とする(2)の乱を描いたのが『(2)物語』である。(1)末期における武士の二大勢力である源氏と平氏の抗争は、当初は平氏が優勢であったが、最終的には源氏の勝利に終わった。『平家物語』は平氏の栄華と没落を描き、(3)の語りによって全国に広がっていった。平氏政権を打倒した源頼朝は12世紀末に関東の鎌倉に幕府を開き、武士による本格的な政権が始まった。

1221年、(4)上皇は北条義時追討の院宣を発したが、朝廷軍は幕府軍の反撃に敗れ、上皇は隠岐に配流された。(5)の乱と呼ばれたこの戦乱を描いたのが『(5)記』である。鎌倉幕府は13世紀後半の二度にわたるモンゴル(元朝)の襲来を撃退したが、それを契機に衰退していった。

1333年、ついに鎌倉幕府は滅亡し、(6)天皇が「建武の新政」と呼ばれる親政を開始した。しかし、これに不満な勢力は足利尊氏を指導者として反旗を翻し、(6)天皇の親政は短期間で終わった。こうして吉野に逃れた(6)天皇とその子孫の南朝と、足利尊氏が京都に開いた室町幕府が支持する北朝が争う時代が約60年続いた。この南北朝の動乱の全体像を描いた代表的な物語が『(7)』である。また、南朝の重臣であった北畠親房は『(8)』を著し、南朝の正統性を主張した。一方、足利氏の側から南北朝の動乱を描き、室町幕府の正統性を述べたものが『(9)』である。室町幕府の九州探題も務めた(10)が著した書は後に『難(7)』と呼ばれるようになる。

平安時代の末から南北朝時代にかけては「四鏡」と称される『大鏡』、『今鏡』、『水鏡』、『(11)』が書かれ、主として貴族の視点から歴史が語られている。また、『(12)』は、鎌倉幕府の歴史を編年体で記した歴史書である。

3 次の文章は、15世紀後半以降の戦国大名の抗争と社会の変化を記したものである。(1)～(13)には適切な語を、(ア)～(シ)には適切な人物の姓名を記入しなさい。助詞以外は漢字で記入すること。

戦国時代は、下のものが上のものを武力で倒す(1)の風潮が生まれた。1493年に細川政元が起こした、足利將軍の廃立事件を(2)という。16世紀半ば、阿波国人(ア)は細川氏に代わって足利幕府の実権を握った。(ア)の死後、その家臣らによって第13代將軍(イ)は殺害された。大内氏の一族は勘合貿易に携わって勢力を広げたが、大内義隆は重臣の(ウ)によって滅ぼされ、(ウ)を厳島の戦いで破った(エ)が中国地方で勢力を拡大する。

戦国大名が産業を奨励したことにより、城下町の発展が促進された。小田原は、戦国時代には(オ)を祖とする一族の城下町として栄えた。寺社参詣の流行とともに、(3)町が各地に生まれた。商取引の活発化とともに銭貨の絶対量が不足する。質の悪い銭であるという理由で受け取りを拒否し、他の銭による支払を求める(4)がおこなわれた。

1560年の(5)の戦いで尾張に侵攻してきた駿河の(カ)を討った織田信長は、武力による全国統一を目指し、(6)の朱印を用いて、その意志を表明した。信長は、みずから將軍に擁立した15代將軍(キ)を京都から追放し、1573年に室町幕府を滅ぼした。

1574年に伊勢長島の(7)一揆を平定した信長は、1575年の長篠の戦いでは鉄砲を活用して(ク)が率いる軍を破り、その直後には越前の(7)一揆を鎮圧した。1580年には(7)宗の頂点にあった摂津の(8)寺をついに屈服させた。この間、信長は近江に(9)城を築いた。

信長の遺業を継いだ羽柴秀吉は、信長の次男である(ケ)と徳川家康の連合軍を相手に小牧・長久手において戦ったが、苦戦を強いられた。1585年に関白に就任し、翌年には(10)となった。秀吉は各地の大名に紛争の停止を求め、それに従わなかった九州の(コ)に制裁を加えて九州を平定した。小田原攻めのなか、(サ)をはじめとする奥州の大名を服属させ、1590年に全国平定を達成した。

戦国大名は年貢をとりたてる際、年貢高を銭で表示する貫高制を実施していたが、秀吉が実施した太閤検地の結果、土地の生産力を米の収穫高で表示する(11)制に改められた。さらに秀吉は、一揆の防止と農民の農業への専念を目的として、(12)令を出した。1592年におこなわれた朝鮮出兵は(13)の役と呼ばれる。これに対して朝鮮の(シ)は水軍を率いて激しく応戦した。

- 4 次の史料を読み、下の問いに答えなさい。なお、史料は一部省略したり、書き改めたりしているところもある。

大日本帝国憲法

第一条 大日本帝国ハ万世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第三条 天皇ハ(1)ニシテ侵スヘカラス

第四条 天皇ハ国ノ(2)ニシテ統治権ヲ総攬シ此ノ憲法ノ条規ニ依リ之ヲ行フ

第五条 天皇ハ帝国議會ノ(3)ヲ以テ立法権ヲ行フ

第八条 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル為緊急ノ必要ニ由リ帝国議會閉会ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ(4)ヲ発ス

第十一条 天皇ハ陸海軍ヲ(5)ス

第十二条 天皇ハ陸海軍ノ(6)及常備兵額ヲ定ム

第二十条 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ(7)ノ義務ヲ有ス

第二十八条 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ(8)ノ自由ヲ有ス

第二十九条 日本臣民ハ法律ノ範囲内ニ於テ言論著作印行集会及(9)ノ自由ヲ有ス

第三十三条 帝国議會ハ貴族院衆議院ノ両院ヲ以テ成立ス

第三十五条 衆議院ハ選挙法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第五十五条 (10)ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

第五十六条 枢密顧問ハ枢密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ応ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

問1 (1)から(10)に当てはまる語句を漢字で書きなさい。

問2 大日本帝国憲法に関する次の問いに答えなさい。

- (A) 大日本帝国憲法が公布された時の内閣総理大臣の名前を漢字で書きなさい。
- (B) 大日本帝国憲法の公布と同じ日に制定された、皇位の継承などを定めた法典を何というか。漢字で書きなさい。
- (C) 貴族院の議員のうち、国家功労者や学識経験者から選ばれて天皇に任命された議員のことを何というか。漢字で書きなさい。
- (D) 枢密院が設置された年を西暦で答えなさい。

問3 初期議会に関する次の問いに答えなさい。助詞以外はすべて漢字で書くこと。

- (ア) 初期議会において、反政府野党が民党と呼ばれたのに対して、政府寄りの党派は何と呼ばれたか。
- (イ) 第一議会において民党の第二党を占めた政党名。
- (ウ) 第二議会でいわゆる「蛮勇演説」をおこなった海軍大臣の名前。
- (エ) 第二回衆議院議員総選挙の際に激しい選挙干渉をおこなった内務大臣の名前。

- (オ) 第四議会での軍艦建設費の拡張をめぐる政府と議会の対立を受けて、明治天皇が双方に妥協を求めた詔を何というか。
- (カ) 第六議会後の1894年7月に日本とイギリスとの間で締結された、領事裁判制度の撤廃などを内容とする条約の名称。